



高松の歴史を未来へつなぐ

大河ドラマ「豊臣兄弟！」にも高松城水攻めで登場し、いま大注目の高松地域。そんな地域の歴史を多くの人に伝えるために活動している団体やイベント取材しました！



清水宗治公肖像画
(画像提供：高松城址保興会林信男)

高松城水攻めとは…？

1582年、羽柴（豊臣）秀吉が堤防を築いて備中高松城を湖のように囲み、水を引き入れて孤立させた戦い。城主・清水宗治公は和議を成立させるため、自らの命と引き換えに、多くの城兵や領民の命を守りました。その潔い最期は敵将・秀吉にも称賛され、宗治は「武士の鑑」とたたえられたと伝えられています。

100年以上にわたり歴史を守り続ける 高松城址保興会



高松城址保興会 会長 林 郁哉さん

備中高松城址資料館（北区高松）

☎086-287-5554

🕒10時～15時（月曜・年末年始は休館）

—「高松城址保興会」とはどのような団体ですか？

高松の地域に清水宗治公という立派な武将がいたということの後世に継承・PRしていくための団体です。明治42年（1909）年に発足し、今も地域住民が会員となって備中高松城址資料館の運営などに取り組んでいます。

— どのような活動をしていますか？

清水宗治公をしのぶ会として、毎年6月に「宗治祭」を開催しています。今年は444回忌を迎え、多くの方が参列し、宗治公の供養を行いました。

また、毎年7月には「蓮見会」を開催しています。これは、高松城址公園内の池に美しく咲く「宗治蓮」を楽しむでもらうための会で、訪れる皆さんをお茶やお菓子でおもてなししています。



昨年復活！高松城址公園で開催される 備中高松まほろば祭り



昨年の様子

今年の開催は**10月24日(土)13時～19時**
フィナーレには花火が打ちあがる予定です。
ぜひお越しください！

— 祭り復活のきっかけは？

コロナ禍で中止となり、廃止も検討されていたまほろば祭りですが、「子どもの頃から慣れ親しんだ祭りをなくしたくない」という思いから新たなメンバーが運営を引き継ぎ、昨年、復活第1回目を開催することができました。

— まほろば祭りは どのようなイベントですか？

備中高松城水攻めの歴史をテーマにしたお祭りです。地元の皆さんが出演するステージや、歴史にまつわるスタンプラリー・クイズ大会なども企画しています。

— 祭りへの意気込みを教えてください。

子どもたちを中心にたくさんの人に来ていただいて、楽しみながら高松地域の歴史・魅力を知ってもらえるような祭りにしたいです。



高松地区地域振興事業
実行委員会

代表 林 大樹さん

まちの未来を つくる人

冬季オリンピック
金メダリスト

き ら 木村葵来選手

Profile

ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックのスノーボード男子ビッグエア種目で、日本人初の金メダルを獲得。22歳。



「夢はかなえるもの」
という信念を
常に意識して。



「子どもたちには「楽しいこと」に熱中してほしい！」

——金メダルを獲得して変化はありましたか？

メディアや学校に呼ばれる機会が増え、競技や自分自身のことを知ってもらえてうれしいです。

——雪が少ない岡山市でスノーボードを始めたきっかけは？

父の趣味がスノーボードで、一緒に雪山へ通うようになりました。幼い頃からスノーボードは楽しいと思っていたようで、動画を繰り返し見ていたそうです。12歳までは器械体操もやっていましたが、テレビでソチ五輪を見てその舞台に憧れ、スノーボードの道を選びました。

——ご家族や周囲の環境が今につながっているそうですね。

週末ごとに遠方の練習場へ送迎してくれた父からは「夢はかなえるもの」という信念を学び、母はマネージャーのように支えてくれました。そして、岡山だから得られたものとして、「人とのつながり」が大きいですね。全幅の信頼を寄せているトレーナーとつながれたのも岡山が縁でした。

——ところで、普段はどこでどのような練習を？

普段は岡山で、そのトレーナーのもと理想の動きが再現できる体づくりのため、全身の関節をまんべんなく稼働させることと、体幹・筋力強化に励んでいます。ウェイトトレーニングは東京の国立スポーツ科学センターで行い、本番を見据えた実戦練習は国内外の施設を回って行っています。

——次の目標や、そこに向けた取り組みを教えてください。

4年後の五輪へ向けて、常にベストな体をキープするよう意識しています。練習施設に入ると10時間はこもるので、同じビッグエアの選手である弟と遊び心を持って楽しむようにしています。「連覇」という言葉に固執してはいませんが、最善を尽くして再びメダルを狙います。

——岡山市の子どもたちへメッセージを！

子どもたちには外でのびのびと遊んでほしい！そして、メダリストと触れ合う機会を通して競技の世界を目指す子が1人でも増えればうれしいです。また、スポーツに限らず「楽しい」と感じた道へ進むことが大切だと思います。僕も楽しさを追求してきたので、子どもたちも自分の気持ちに素直に向き合って夢をかなえてほしいです。



今回は、中区の宇野小学校で運動交流を通して6年生と触れ合った木村選手。一緒にワークストレッチを実践した